らいふプラス

「おすすめ本」がつなぐ縁

カフェで書評合戦や読書会

初対面の人と読んだ本の感想を語り合ったり、おすすめの本を紹介してもらったり――。カフェや図書館を舞台に、本好きが集い、交流する催しが盛んに開かれるようになった。参加者同士が本を媒介に打ち解け、友人関係に発展する場合も多い。読書がつなぐ縁を追った。

本交換で仲良く

「あの芥川龍之介の若き日のはつらつとした姿は必見。イケメンで格好よく、口調もそれっぽくて……」

「駅マニアの2人が『すごい駅』の魅力を話し続ける本。旅先で、駅は通り過ぎるだけではもったいない、という気分になってきます」

9月下旬の昼下がり。東京・荻窪のカフェ「6次元」に15人ほどの本好きが集まり、書評合戦「ビブリオバトル」を楽しんだ。面白いと思う本を持ち寄り、1人5分の持ち時間で魅力を紹介する。質疑応答のあと最も読みたくなった本を皆で投票し、多数決で「チャンプ本」を選ぶ。

駅の本を紹介した高畑亜紗美さん（31）は他の参加者と終了後も旅行やグルメ話で盛り上がった。その隣のテーブルでは熱い文士談議が繰り広げられ、参加者それぞれの人柄が垣間見える。

紹介本がチャンプ本に選ばれた安村正也さん（45）は「これはという本を選んで紹介し驚きの反応が返ってくるのが楽しい」と話す。知る人ぞ知る本を手にすれば注目が集まる。安村さんは参加頻度の多い常連。ビブリオバトルで知り合った仲間が山梨で主宰すると聞き、グループ旅行もかねて仲間と「遠征」したこともある。

企画したTokyoBiblio代表の稲川綾乃さん（35）は「バトルは連絡先の交換やフェイスブックでの友達申請につながっていく。本の発表は自己紹介みたいなもの。『この人とは話が合うかも』と自然に仲良くなる」と話す。

本を交換し合う「ブクブク交換」もファンが多い。おすすめの本を紹介するところはビブリオバトルと同じだが、自分が持ってきた冊数分、欲しい本を持ち帰ることができる。自分が持ち込む本にはコメントを書き込んだ付箋を付け、名刺を挟んでおく。イベント後も関係がつながる仕掛けだ。

愛知県田原市図書館長の豊田高広さん（55）はフェイスブックを通じてブクブク交換の発案者、テリー植田さん（42）を知り、東京の八重洲ブックセンター本店（東京都中央区）での会に参加した。

「これは面白い。本好きには内気な人も多いが初対面でも自然に知り合える」と直感、8月には地元で開催した。盛況ぶりを受け、11月に開く市制施行10周年記念行事にも取り入れる。ブクブク交換は「初対面の人同士がすぐ仲良くなれる仕組みを目指した」（植田さん）というコンセプトが受け大学、カフェ、銭湯、病院、海外にまで広がる。

20組超が結婚

課題本について議論する読書会も自由な雰囲気へとイメージが変わってきた。参加者のべ7千人を超える日本最大級の読書会「猫町倶楽部」。9月下旬の週末、東京・代官山の「chano-ma」に集まった本好きは110人を超えた。題して「東京文学サロン月曜会」。45回目となるこの日は歌人の枡野浩一さん（45）を招き、石川啄木を題材とした枡野さんの著書「石川くん」を採り上げた。

作品や顔写真のイメージとは裏腹に啄木の自由奔放な一面を知って、参加者は「友達だったら大変」「だらしないけど放っておけないのかも」と感想をぶつけ合う。「相手の意見を否定しない」のが基本ルール。ケーキや紅茶を楽しみつつ、参加者が詠んだ短歌に枡野さんが寸評したり、ベストドレッサー賞を決めたり、参加回数に応じて特製ブックカバーを贈ったりと趣向を凝らす。

この読書会発祥の地である名古屋から東京に転居した常連の男性（31）は「ここが東京の友人を作る場。休日のバーベキューなど課外活動も盛んです」。また「婚活イベントより価値観の合う相手がみつかる」（20代女性）という声も。結果的に結婚したカップルは20組は超えるという。

インターネット上では書評サイトや交流サイト（SNS）で感想をやりとりする「ソーシャルリーディング」が存在感を示している。ただ、読書会の仕掛け人で名古屋でリフォーム業を営む山本多津也さん（48）は「ソーシャルリーディングだけでリアルな場につながらないならば、満足感が得られないのではないか」とみる。読書会ではネットやSNSを通じて常に新しい人が加わることが、参加者の刺激となっている。

猫町倶楽部ではケーキや紅茶を楽しみつつ、著者と本談議ができることも（東京・代官山のカフェレストラン「chano-ma」）

自然に会話、交際に発展も

ブックセンター本店（東京都中央区）での会に参加した。「これは面白い。本好きには内気な人も多いが初対面でも自然に知り合える」と直感、8月には地元で開催した。盛況ぶりを受け、11月に開く市制施行10周年記念行事にも取り入れる。ブクブク交換は「初対面の人同士がすぐ仲良くなれる仕組みを目指した」（植田さん）というコンセプトが受け大学、カフェ、銭湯、病院、海外にまで広がる。

20組超が結婚

課題本について議論する読書会も自由な雰囲気へとイメージが変わってきた。参加者のべ7千人を超える日本最大級の読書会「猫町倶楽部」。9月下旬の週末、東京・代官山の「chano-ma」に集まった本好きは110人を超えた。題して「東京文学サロン月曜会」。45回目となるこの日は歌人の枡野浩一さん（45）を招き、石川啄木を題材とした枡野さんの著書「石川くん」を採り上げた。

作品や顔写真のイメージとは裏腹に啄木の自由奔放な一面を知って、参加者は「友達だったら大変」「だらしないけど放っておけないのかも」と感想をぶつけ合う。「相手の意見を否定しない」のが基本ルール。ケーキや紅茶を楽しみつつ、参加者が詠んだ短歌に枡野さんが寸評したり、ベストドレッサー賞を決めたり、参加回数に応じて特製ブックカバーを贈ったりと趣向を凝らす。

この読書会発祥の地である名古屋から東京に転居した常連の男性（31）は「ここが東京の友人を作る場。休日のバーベキューなど課外活動も盛んです」。また「婚活イベントより価値観の合う相手がみつかる」（20代女性）という声も。結果的に結婚したカップルは20組は超えるという。

インターネット上では書評サイトや交流サイト（SNS）で感想をやりとりする「ソーシャルリーディング」が存在感を示している。ただ、読書会の仕掛け人で名古屋でリフォーム業を営む山本多津也さん（48）は「ソーシャルリーディングだけでリアルな場につながらないならば、満足感が得られないのではないか」とみる。読書会ではネットやSNSを通じて常に新しい人が加わることが、参加者の刺激となっている。

店の一角 本貸し借り

町中のカフェや店舗、公共施設、コワーキングスペースなどを本棚代わりにして、本好きが集う交流の空間をつくる動きも出てきた。「リブライズ」というプロジェクトがそれ。本を識別する「ISBNコード」とバーコードリーダーを使い、カフェの片隅に置いた本も簡単に貸し借りできる。スマートフォンが図書カード代わりに機能する。

考案したのは河村奨さん（34）と地蔵真作さん（48）。ともに本業はプログラマーだ。昨年9月の本格導入から1年ほどで登録スポットは全国で300を超え、蔵書は6万3千冊に。フェイスブックでそれぞれの場所の蔵書が分かり、利用者は貸し借りの履歴を公開できる。スポットの開設や本の寄贈も簡単だ。

場所や店主のカラーによって蔵書に特色が出て、「まるで一つ一つが専門図書館。本棚を育てる箱庭的楽しみがある」（河村さん）。「本が場所や人を語ってくれる」（地蔵さん）。年内には東京・下北沢周辺のカフェの蔵書を紹介する「シモキタ図書館」を実現させようと意気込む。

「本を仲立ちに人をつなぐ」主な試み

猫町倶楽部

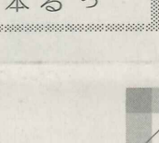
名古屋でリフォーム業を営む山本多津也さんが友人と2006年に始めた読書会がルーツ。文学以外にビジネス書を扱う会も

一箱古本市

東京・谷中周辺で始まった古本市。段ボール一箱分の古本を持ち込む。売り手と買い手のやりとりを楽しむ人も多い

ビブリオバトル

京都大学で谷口忠大さん（現・立命館大学准教授）らが07年に始めた。普及委員会を中心に各地で開かれ、全国規模の大会も



ブクブク交換

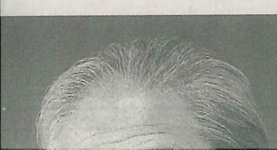
テリー植田さんが発案し、ツイッターで告知して集まったのを機に10年にスタート。本に続き映画を題材にしたイベントも計画中

リブライズ

「すべての本棚を図書館に」を掛け声に12年スタート。9月には1周年のイベントを「下北沢オープンソース・カフェ」で開催

人間発見

ともひろ
関　智弘さん

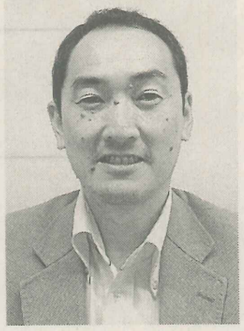


フォーカス

田中　勇一氏

ソーシャルビジネスの担い手育成

社会貢献と事業 両立を応援



高齢者や障害者の介護、街づくりなど社会が抱える課題を事業の発想で解決する「ソーシャルビジネス」。その担い手となる社会起業家を育てる社会起業大学（東京・千代田）を設立して3年、在籍・卒業生は300人を超えた。来春には九州校を開設する。

社会のためになる仕事をしたいと銀行マンになったのはバブル崩壊後の1992年。融資回収などの仕事に追われる日々に「これが自分のやりたいことかと自問自答していた」。銀行を飛び出して人材コンサルタント会社や新銀行東京かかわったが、つきまとっていた。

転機は社会起ともに立ち上げ作氏との出会い業からの転身をいた中村氏と話貢献とビジネスようと頑張る人る場をつくりた気投合。2010の開校にこぎつ

ソーシャルビ挑むのは「滅私分野ばかり。ど収支が合って長れる事業になの課題だ。年齢性別も様々な学一杯やりながらわせる夜も多い

「スクールビ正直大変」と苦が、卒業生は元者が高齢者を介業を立ち上げたドの農村支援にだりと活動の場てきた。「ソービジネスを普通の言葉にしたい」語る姿は熱い。

＝たなか・ゆう歳